

TODAY'S THERAPY 2018

60th

今日の治療指針 私はこう治療している

Volume 60

総編集

福井 次矢 高木 誠 小室 一成

医学書院

60th

TODAY'S
THERAPY

2018

今日の
治療指針

私はこう治療している

医学書院

口腔ケアと喫食障害

oral care and eating

鈴木俊夫 鈴木歯科医院・院長 (愛知)

I 口腔ケア

A 定義

口腔の疾病予防、健康保持・増進、リハビリテーションにより QOL の向上を目指した科学であり、技術である。

1. 広義 保健所や保健センターまた医療機関で実施されている、健康教育、健康相談、健康診査、保健指導、齲蝕予防、オーラルフレイルの予防、さらには、個々で行われる口腔の保清から義歯の管理、口腔周囲筋や嚥下機能のリハビリテーション、舌運動機能や咀嚼機能の維持・回復、口腔の美容など幅広い領域にわたる。

2. 狭義 歯科検診、口腔清掃、齲蝕・歯周疾患の予防、歯磨き指導、義歯の手入れや保管管理、口腔乾燥の防止、口臭の予防、口腔周囲筋のマッサージ、舌苔の除去、摂食嚥下訓練、言語訓練、インプラント治療後の管理などがある。

B 目的

誤嚥性肺炎、口臭、口腔乾燥、舌苔、齲蝕、歯周疾患などの予防、口腔機能の維持回復、口腔内の清潔の保持、疼痛の予防、咀嚼嚥下障害の予防などで、爽快感の付与や、日常生活習慣の回復・維持を行うとともに、摂食嚥下を推進し、円滑な栄養摂取、審美状態の改善、会話の改善を進め、人としての生活機能の維持改善をはかる。また最近では癌の化学療法や放射線療法、造血幹細胞移植における補助療法として注目されている。

C 口腔内の状況

セルフケアや口腔ケアが不十分に陥ると、食物残渣の停留、歯垢の付着、齲蝕や歯周疾患の発生と増悪、さらには拡大と重度化、歯牙・歯肉・舌の疼痛、歯牙の動揺、歯肉・口唇・粘膜などからの出血、義歯の不適合・汚染・破損、義歯の保管・管理の不徹底、口腔乾燥、顎関節の脱臼、嚥下障害などが生じる。

さらに、高齢化とともにインプラント治療を受けた人のセルフケアの維持、インプラント治療カードの保管・管理などが大きな課題となっている。

D 誤嚥性肺炎と食介護

口腔機能の麻痺や低下をきたしていると、食事の摂食時ばかりでなく、無自覚症状として口腔内細菌が気管から肺へ流れ込み、肺炎を起こすことがある。それを予防するには、摂食嚥下リハビリテーションと口腔ケアを同時に実施し、口腔内を清潔に保つことが不可欠となる。まずは、口腔内のアセスメントを行い、歯科関係者による口腔機能の回復とともに、栄養ケアマネジメントや栄養サポートチーム (NST: nutrition support team) の組織化を実施し、管理栄養士や言語聴覚士と連携をはかり、食事形態を咀嚼嚥下機能に応じて変更することが重要である。また、同時に、食介護の技術も誤嚥を防ぐために最重要の行為となるため、介護職のスキルアップが求められる。

現在、口腔ケアの充実と向上をはかるために、日本口腔ケア学会が設立され、認定制度を実施している。

II 喫食障害

A 喫食とは

満喫するという意味合いから、食事を食べることを、栄養関係では「喫食」と表現し、医療関係者では「摂食」と表現している。その違いを整理すると、「喫食」とは、楽しく語らいながら、やさしい雰囲気の中で、美味しく食べることを、「摂食」とは、生きていくため (生命維持のため) に、食べる

ことを意味する。

視点を変えると、「喫食」は「質」を、「摂食」は「量」を、表現している。

㊦ 喫食障害

喫食を妨げる要因としては、主として下記のようなことが挙げられる。さまざまな要因が絡み合って喫食障害をきたす。

1. 歯科・口腔領域における要因 歯痛，歯牙の動揺，多数歯欠損，悪性腫瘍，口腔乾燥，口内炎，味覚障害，神経痛，顎関節疾患，外傷など。

2. 身体的要因 嚥下障害，摂食障害，脳梗塞・脳出血などの後遺症，パーキンソン病，認知症，ストレスなど。

3. 環境的要因 孤独，騒音，臭い，色彩，気温，場所など。

㊧ 喫食障害と口腔ケア

喫食障害を予防・改善するには，病院や施設全体で口腔内状況の維持・改善に取り組んでいくことが不可欠である。具体的には，管理栄養士や看護師などが喫食状況に問題がありそうな事例を早く把握し，歯科関係者へ早く連絡するとともに，歯科関係者からも管理栄養士・看護職・言語聴覚士・介護職などに情報を提供することが必要となる。

㊨ オーラルフレイルの予防

口腔内の状況を改善し，口から食物を摂取することが，健康維持増進，介護予防に大きく貢献すると考えられるため，オーラルフレイル（口腔の衰弱）を防ぐことが，全身のフレイルを予防することになる。口腔機能を維持・回復し，喫食障害を改善することが不可欠である。